



東中学校 学校だより

12月号(令和3年12月23日発行)

TEL042-471-2765 FAX472-7995 URL : <http://members2.jcom.home.ne.jp/higa-j/index.htm>

過ぎ行く1年間を振り返ってみよう！～「反省」&「振り返り」～

校長 松田 正

師走の候、寒さが一段と身にしみる季節となりました。生徒の皆さん、地域・保護者の皆さまには寒さに負けることなく益々ご健勝のことと存じます。令和3年もあと1週間ほどで次の令和4年になります。学校のスケジュールは年度計算のため3月が区切りですが、暦（こよみ）としてはこの12月で一年が終わります。地域・保護者の皆さまには行事の参観等大変お世話になりました。

この一年もコロナ対応が基本の一年でしたが、生徒のみなさんはどのような一年だったでしょうか。「目標にしていたことが達成できた充実した1年間だった」か、「やり残したことが多く来年こそは頑張ろうと思う1年だった」かなど人それぞれで違うのではないかと思います。また、「ゆっくり1年間を振り返っている余裕はもてないな」と思う人もいるかもしれません。

授業でも最後のまとめで「今日の授業を振り返ってみましょう！」と時間を取ります。「振り返ること」がなぜ大事か考えて見ましょう。「振り返り」とは英語で「リフレクション」と言います。

「自らの言動や傾向を客観的に捉えて、次に向けた改善点の洗い出しを行い、その改善点を実行する」という意味です。また似ている言葉に「反省する」という言い方がありますが、「振り返り」と「反省」はどこが違うのでしょうか。「反省」の場合は、すでに起きてしまったことに対して、「できなくてごめんなさい」「迷惑かけて悪かったです」「もうしません」から始まって「なぜそれが起きてしまったのか？」「誰の責任だったのか？」など起きてしまった原因や結果についての責任の追及になって「次はどうするか」までは違う話になります。そうすると感情的に自分を責める傾向になってしまい「反省」をしたいとは思わなくなります。しかし「振り返り」の場合は次へのステップを考えることが目的ですから自分や誰かを責める「反省」とは大きく違う内容になります。

「振り返り」の内容は頭文字から SSCC (Start (新しく何を始めるか)・Stop (効果がないため何を止めるか)・Continue (効果があったため何を続けるか)・Change (よりよくするために何を变えるか) や、または KPT (Keep (何を続けるか)・Problem (かかえている問題は何か)・Try (何に挑戦するか) など次への実行策を考えることが中心ですから嫌な気持ちはしないでしょ。

ぜひ、この年末は令和4年に向けてこの1年を振り返り来年への挑戦を始めてほしいと思います。

○2年校外学習の実施～スローガン:鎌倉リベンジャーズ～協力し武家の歴史を体感しよう～

11月26日(金)に鎌倉を目的地に班行動による校外学習を実施しました。今年度はコロナ対策もあって貸し切りバスを使っでの移動としました。1・2組と9組も合わせて13の班が各班でスケジュールを決めて鎌倉の街を駆け巡りました。2年生になって初めての学年行事ということもあって限られた時の中、一生懸命に見学に取り組みました。修学旅行の練習という目的もありますが、全班がやりくりをしながら班の目標を達成できて思い出に残る校外学習になりました。



【鶴ヶ岡八幡宮参道で】

○9組・社会科見学の実施 ～群馬県富岡製糸場・こんにゃくパークの見学～

12月3日（金）9組で社会科見学を実施しました。今年度は宿泊学習も中止になりましたので、見学先は少し遠いですが世界遺産になった群馬県の富岡製糸場と、群馬県の特産物であるこんにゃく芋をテーマにしたこんにゃくパークを見学しました。富岡製糸場ではガイドさんから説明を受けながら広い工場内を歩きました。次のこんにゃくパークでは体験学習として「フルーツこんにゃく作り」を体験し、こんにゃく製造の機械化された工場を見学して有意義な一日となりました。



【フルーツこんにゃく作り】

○1年職業講話(東中同窓会と協力)～本校卒業生の先輩からの話～

12月17日（金）1年生で職業について講話を聴く会を実施しました。講師は本校の卒業生で33期生の会社経営の井部崇史さんと40期生のアクセサリー作家の田川愛実さんでした。質問もたくさん出て職業について考える機会となりました。



【33期・井部崇史さん】



【40期・田川愛実さん】

○体力向上キャンペーン～クラス対抗ドッチボール～

12月13日（月）～16日（木）の昼休みを使って「体力向上キャンペーン」を行いました。「体力向上」は現在中学生の体力が落ち課題となっています。種目はドッチボールで全学年が一緒になって行いました。その結果、決勝は3年2組対2年1組となって3年生は上級生のプライドをかけての対戦となりました。いざ対戦してみると2年生も頑張りましたが、さすが3年生ですね。受験勉強で体力は落ちていたでしょうが見事優勝しました。



【決勝戦 3-2 対 2-1】

○人権尊重推進月間	人権作文東京都大会 奨励賞	3年1組	新村 佳歩
	人権作文東京都大会 作文委員会賞	3年1組	中川 彩良
	人権作文の部 市長賞	3年1組	中川 彩良
	人権標語の部 教育長賞	1年1組	笠原 結珠
	ポスターの部 教育長賞	2年1組	久保 衿奈
○租税教育	(税についての作文)		
	東京都納税貯蓄組合連合会長賞	3年1組	中川 彩良
	多摩武蔵納税貯蓄組合連合会長賞	3年2組	西田彩葉子
	(税についての標語)		
	東京都立川都税事務所長賞	3年1組	三宅 朋佳
○全国小中学生俳句大会	入選	3年2組	森屋 優人
	秀逸	3年2組	竹中 羽衣
	入選	3年1組	大島 柚風
○空手(組み手) 全国大会体重別	入選	3年1組	岡安 真翔
	優勝	2年2組	山中 一成

才能を發揮しました!

○学習について

学習にうまく取り組んでいる生徒の様子を見ると次の6つの傾向が見られます。

- 1 自分としての学習方法を身に付けている。
- 2 学習することは「自分にとって大事だから学習する」と考えている。
- 3 学習したことについて「その日やなるべく近い時期に振り返る」ことができている。
- 4 「何が分かり、何が分からないか」考えながら学習に取り組んでいる。
- 5 「分からない内容についてあきらめない」で分かろうとする。
- 6 「学習したことを忘れないようにする方法」を身に付けている。

また、学習が思うように進まない生徒の傾向には次の6点が見られます。

- 1 学習の仕方がわからない。
- 2 学習は「人から言われたからやる」と考えている。
- 3 学習したことについてなるべく近い時期に振り返らないから忘れてしまう。
- 4 学習したことについて何が分かって何が分からないか分からない。
- 5 わからないとすぐにあきらめてしまう。
- 6 学習したことを忘れないようにする方法を身に付けていない。

これらの生徒の傾向を見て1～6について考えてみたいと思います。

【1について】学習方法や学習の仕方については、小学校から学校での学習を始めて以来6年間がたっていますので必ず何らかの学習方法を身に付けているはずですが、中でも大事な学習方法は「忘れないうちに学習すること」「ほぼ毎日やること」ということです。人間の記憶は大人であろうが子どもであろうが「時間がたつと忘れること」です。だから忘れてはならないことはメモに取ったりして忘れないようにします。そうしないとどんどん忘れていきます。学習方法の第一は「忘れない方法」を身に付けている学習方法をもっているかいなかです。一日6教科も学習して何もしなかったら忘れる一方しかありません。

【2について】これは意外に重要なことで大学の先生方が論文を書いています。目標に4つあって、①怒られるから学習する②テストがあるから学習する③自分の役に立つために学習する④社会の役に立つために学習するです。このうちの①と②は悪い点を取ると学習をあきらめたり難しい内容になると投げってしまう傾向があります。③と④の生徒は学習に向かう意欲が高いとされています。今回の文科省の学習評価ではこれを成績に入れるように変わりました。「主体的に取り組む態度」という態度の評価を100点中30点強入れるので①・②の目標で学習に向かう生徒は「主体的に学習に取り組む態度」が育っていないためそれだけで低い評価になります。

【3について】本校で中間考査を無くした大きな点はここにあります。「テストのために学習する方法」としているとテストの前だけやればよいとなって学習をためてしまっでどんどん大変になります。これは部活動と同じで試合があるから試合の前だけ練習しても試合には勝てないでしょう。日々練習してこそ試合に勝てるわけです。定期テストは試合と同じです。テストの前だけ学習しても本当の学習にはならないということです。基本はその日にやったことはその日に振り返っておくことです。それができなくても1週間以内くらいにはもう一度何をやったか思い出しておくことです。これが学習の基本であり学習を進めることができている生徒の学習方法です。一つの単元が終わる前に復習をして大丈夫としておく学習を進めることが基本です。

【4について】これは観点別評価の2番目の(思考力・判断力・表現力)と関係があります。これも成績の内の100点中30点強に入ります。とくに学習内容について「今日は何を学んだのか」「何が大事だったのか」を判断し、それを考えることができたかということです。簡単に言えばヒラメとカレイを学んだ時に違いが分かっている見分けをつけられないということです。考えたり観察したりしなければ同じに見えるからです。

【5について】このことも今回の「主体的に取り組む態度」という評価で成績に入ります。評価規準は2点あって1つは「粘り強く学習したかどうか」2つ目は「学習を調整したかどうか」です。つまり学習で難しい内容になった時にすぐあきらめないで先生に聞いたり友人に聞いたりして分かるようにしたかという粘り強さがあったかどうか、分からなかったら違う方法でやってみるよう調整することができたかどうかということです。

【6について】このことは前の文に何度か出しましたが、一度聞いたらすぐ理解し忘れないといった人ばかりではないはずですが。だからノートに何度も書いたり、人に話したりして「忘れないための方法」を取るわけです。大人だって仕事する時に当たり前にそうします。壁に大事なことを張り付けて忘れないようにいつも見ている人もいるでしょう。そのように「学習したことを記憶に留めておくための方法」をもっていることが大事です。

このように学習について大切と思われることを述べましたが、学習がうまく進まないという人はこの中のどれかの課題に当てはまるのではないのでしょうか。自分なりの学習方法を身に付ければ必ず学習は進みます。テストがあるからといって一夜漬けのその場限りの方法は学習ではありません。日々学習ができるような学習方法を身に付けることが遠回りのようですが将来何をやるにしても大切であることに気づいてほしいと思います。